

9月30日

ほうとうむすこ
テーマ：放蕩息子

ふくいんしょ しょう せつ
聖書箇所：ルカの福音書15章11～32節

◆今日のみことば

こうして彼は立ち上がって、自分の父のもとに行った。ところが、まだ家までは遠かったのに、父親は彼を見つけ、かわいそうに思い、走り寄って彼を抱き、口づけした。ルカの福音書15章20節

◆メッセージ



とう ざいさん わ とお くに たび で おとうむすこ
お父さんから財産を分けてもらって遠い国に旅に出た弟息子。

あつという間にお金を使い果たしてから、大ききんが起こります。食べることも困り、誰も相手にしてくれない中で「お父さんのところに帰ろう」と立ち上がりました。

じぶんかって で い あそ
自分勝手に出て行き、ぜいたくに遊んで

ざいさん つか は なん とお おとうむすこ かせ
財産を使い果たしてしまったというのに、何とお父さんは弟息子が帰ってくるのを毎日毎日待っていたのです。

と お むすこ み かわいそうに おも はし よ だ
遠くから息子を見つけ「かわいそうに思い」走り寄って、抱きしめてくれたのです。きっと何日も着替えもせず、汚れて においもしていたことでしょう。そんなことを気にもせず、お父さんは大喜びで迎えてくれたのです。



じぶんかって ほうとうむすこ に かみ し かみ はな
私たちが自分勝手にしたい放蕩息子と似ています。神さまを知っていても、神さまから離れて、わがままやうそ、悪口、自分でしたくないと思っている悪いことを毎日してしまうのです。でも神さまは、私たちがお父さんの家に帰る放蕩息子のように神さまのもとに帰ることを、いつも待っていてくださいます。

じぶん ちから つみ せいかつ や
私たちは自分の力では罪の生活を止めることはできないのです。

ちち かみ おも ご じゅうじか
父なる神さまは、そんな私たちを「かわいそうに思って」ひとり子のイエスさまを十字架

につけて、私たちを招いてくださいました。

ですから私たちが待っていてくださっている神さまのもとに毎日帰りましょう。神の子どもとして、神さまは大喜びで迎えてくださいます。

◆お祈り

かみ よろこ むか かんしゃ まいにち ちち かみ かせ
「神さま、私たちが喜んで迎えてくださり感謝します。毎日、父なる神さまのもとに帰ります。」

(知立キリスト教会 原田朗子)